



ひろげようHMネット —参加医療機関の声— INTERVIEW

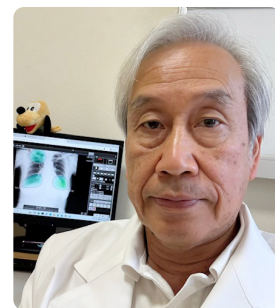
府中地区医師会 谷医院 谷 秀樹 先生

患者さんと共に診る地域医療 ～情報共有が支える安心の診療～

●地域を支えるかかりつけ医として

当院では、循環器疾患、消化器疾患、生活習慣病を中心に一般内科診療を行っています。近年は認知症や老老介護、独居高齢者、高齢の親が子を介護するケースなども増えており、地域包括支援センターやケアマネジャー、訪問看護など、多職種との連携がますます重要になっています。

また、循環器疾患では心筋梗塞治療後、狭心症、心房細動アブレーション後、ペースメーカー植込み後、慢性心不全の患者さん、さらに、がん治療中・治療後の患者さんなど、基幹病院との連携が欠かせない症例を数多く診療しています。



谷 秀樹 先生

●地域包括ケアを見据えてHMネットへ参加

HMネットには、2013年の運用開始当初、地区医師会で開催された県医師会の説明会をきっかけに参加しました。

当時は地域包括ケアシステムの構築が推進され、多職種連携の重要性が高まっていた時期でした。そのような状況の中で、HMネットは地域医療を支える情報共有の仕組みとして、有用なツールになると考えました。

●患者さんと一緒に画像を見る安心感

現在は、併診している基幹病院で実施された血液検査や画像検査を、当院受診時に参照することが最も多い活用場面です。基幹病院では患者さんへ丁寧に検査結果を説明していただいているのですが、画像そのものをご覧になっていないケースもあります。そのため、当院で画像を患者さんと一緒に確認しながら説明すると、「基幹病院でここまで詳しく診てもらっていたのか」と安心されることが少なくありません。

診療情報を共有することは、診療の判断に役立つだけでなく、患者さんの理解や安心感にもつながっていると感じています。

●東部地区だからこそ感じること

福山・府中地区では、まだHMネットの利用が十分に広がっているとは言えません。

中規模病院との併診も少なくないことから、こうした病院にもHMネットの開示施設として参加していただければ、診療所としては診療に大きなメリットがあると感じています。

一方で、開示施設には参加料などの負担もあることから、その点も含めて今後の検討に期待しています。

●さらに使いやすいHMネットへ

最近では、AI胸部X線画像診断支援システムも利用し始めました。見落としよりも過剰診断（over diagnosis）の方がよいと考えており、今後も診断精度の向上に期待しています。

また、開示施設やその診療科によっては開示情報が十分ではないため、より多くの診療情報が共有されるよう期待しています。画像読影所見まで開示されている病院は、診療所として大変助かっています。

さらに、開示施設では紹介受診した患者さんがHMカードを持っていない場合、可能な限りHMカードを発行していただければ、発行数や閲覧数が増え、診療報酬上もメリットがあるのではないのでしょうか。患者さんがHMカードを持ち帰ることで、紹介元のかかりつけ医でもHMネットを活用しやすくなり、地域全体で利用が広がるきっかけになると期待しています。

●これから利用を検討される医療機関へ

HMネットは、病院とかかりつけ医が診療情報を共有しながら患者さんを継続して診ていくための、有用な仕組みです。

地域全体でHMネットを活用する医療機関や開示施設が増えることで、患者さんにより安心して医療を受けていただける環境が整い、地域医療連携がさらに充実していくことを期待しています。



谷医院

〒726-0004 府中市府川町171-1

TEL：0847-45-1188/FAX：0847-47-1211

HMネット利活用に関するアンケートご協力をお願い

～参加医療機関のご意見を今後のHMネットの運営・機能改善に活かします～

広島県医師会では、HMネットのさらなる利活用促進と、今後の機能充実や地域医療連携の在り方を検討するため、HMネット参加医療機関を対象にアンケートを実施します。

アンケートでは、HMネットの利用状況や利用環境、今後期待する機能などについてお伺いし、いただいたご意見・ご要望を、今後のHMネットの運営および機能改善の検討資料として活用させていただきます。

回答フォーム（二次元コードまたはURL）からご回答いただけます。

回 答 時 間：約10分

回 答 期 限：令和8年11月13日(金)

回答フォーム：<https://forms.gle/Wf2Zp34VMgiRLpfZA>



皆さまの率直なご意見をお待ちしております。